

〔個別研究〕

妊娠・出産・育児情報の数量的評価に関する研究(第2報)

— 雑誌「ピー・アンド」および「朝日新聞」における情報の質的要素の分析 —

母子保健研究部 齋藤幸子
愛育病院小児科 岡本 暁

要 約

本研究の目的は、新聞および雑誌に含まれる情報の質的特徴を明らかにすることで、雑誌「ピー・アンド」1年分12冊と、朝日新聞東京本社版6カ月分に掲載された妊娠・出産・育児に関わる広告を含む記事すべてを対象に分析を行った。分析方法は、雑誌は頁数、新聞は行数を値カテゴリーとして集計し、以下の結果を得た。

1. 「朝日新聞」では小児保健の分野の情報が90%近くを占める。一方母性保健分野の情報の割合は少ない。
2. 「ピー・アンド」、「朝日新聞」いずれも広告が対象となる記事の約3分の1を占めており、広告は情報として軽視できない量である。
3. 記事制作に関わっている専門家は、医師が大部分を占め、なかでも母子保健分野における医師以外の専門家の頻度は非常に少ない。特に新聞への執筆は皆無であった。
4. 記事の内容は、どちらも「肯定的」が多いが、「中立」と「否定的」記事は「ピー・アンド」に比べ、「朝日新聞」の方が多かった。

見出し語 : 妊娠、出産、育児、数量的評価、情報の質

Study on Quantitative Evaluation of information of Pregnancy, Childbirth, and Child Care :
Qualitative Analysis of Information in "P.and" and "The Asahi "

Sachiko SAITO , Akira OKAMOTO

Abstracts

The information of Pregnancy, Childbirth, and Child Care was analyzed both quantitatively and qualitatively in 12 volumes of "P.and" (monthly magazine) , and all issues within 6 months of "The Asahi "(daily news paper) .

The quantitative analysis was done by a page as a unit of calculation in "P.and", and by a line in "The Asahi". Acquired results are as followings.

1. In "The Asahi", 90% of information concerned to child care , and the information concerned to pregnancy and childbirth was only a little.
2. Advertisements occupy 1/3 space of the articles both in "P.and" and in "The Asahi" .
3. The majority of writers were medical doctors. Especially, no one other than medical doctors wrote in "The Asahi".
4. More than half of all information was affirmative both "P.and" and "The Asahi". However, neutral and negative information was found in "The Asahi " more than in "P.and" .

Key words : Pregnancy , Childbirth, Child care, Evaluation of quantification, Quality of information

I 研究の目的

III 結果と考察

母子保健分野の適切な情報供給を目指すため、我々はすでにマスメディア情報の問題点と、育児中の母親のニーズを質問紙によって調査した。その結果、今ある情報を何らかの形で整理し、受手が情報を選択しやすいようにする必要があった。情報を整理するためには質と量、双方からの評価が必要であるが、まず情報を量で捉える方法を確立した。すなわち前報¹⁾において雑誌の記事に含まれる妊娠・出産・育児情報を6つの領域(表1の表頭1~6)に分類し、ページ換算による情報の定量化を行った。しかし、これはあえて質的要素を排除しての作業であったため、例えば広告の1頁も、専門家が執筆した1頁も同等なポイントとして数量化したものであった。そこで、今回はメディアの質的な特徴を明らかにするために、対象メディアに新聞も加え、質的カテゴリー別に解析した。

II 研究の方法

集計対象は小学館の雑誌「ビー・アンド」91年1月号から12月号までの1年分12冊の計2273頁と、1992年4月1日から9月30日の朝日新聞東京本社版計362部(朝刊177部、夕刊151部、日曜版24部、その他の別冊10部)に掲載された妊娠・出産・育児に関わる記事すべてである。ただし、新聞の場合は子どもに関する情報は就学前までを対象とし、雑誌と同様に広告記事も含めたが、番組欄は対象外とした。

はじめに前回確立した数量化の手法を新聞に当てはめ、分類項目別ポイント計算を行った。続いて「ビー・アンド」はページ数、「朝日新聞」は行数(縦12文字を1行)を値カテゴリーとして質的カテゴリー別に集計した。質的要素として入力し、今回分析した項目は雑誌、新聞それぞれ以下のとおりである。

<雑誌「ビー・アンド」>

1. 記事内容の分類(表2:表側参照)
2. 記事制作形態(表3:表側参照)
3. 記事制作に関わった人の職種
(医師、看護婦、保健婦、助産婦、心理教育関係)
4. 記事の傾向(肯定的、否定的、中立)

<朝日新聞>

1. 記事の構成(標題、写真、イラストの大きさ)
2. 記事制作者(表4:表側参照)
3. 掲載面(表5:表側参照)
4. 記事の傾向(肯定的、否定的、中立)

1. 新聞の分類項目別ポイント計算結果

朝日新聞の1頁(1面)は、1段が縦12文字、横88行の14段組が平均的な成立ちである。情報量を計る基準とし、一つの記事を構成する標題、記事本文、写真イラストなどすべてを含む大きさを、縦12文字を1単位とする行数で表した。朝日新聞92年の6カ月分で検索された妊娠・出産・育児に関する記事は475件で、対象の行数合計は70549行であった。これは対象とした新聞の全頁からみると、わずか0.6%程度に過ぎない。これをビー・アンドの場合と同じ90項目で洗い出し、ポイント計算を行った。

前回確立した数量化の手法を新聞に当てはめると、ポイント($P_i = P_a/N$)において、 P_a は一つの新聞記事全体の占める大きさを行数で表したものの、 N は、その記事に含まれる分類項目数の合計である。分類項目別のポイント計算では、表1のごとく雑誌「ビー・アンド」とは異なる分類項目の分布を見た。

表1 分類項目別ポイント数の割合(%)

	ビー・アンド	朝日新聞
1 正常妊娠	24.3	7.4
2 異常妊娠	4.0	2.5
3 分娩・出産	9.8	1.6
4 育児上の親側の情報	23.0	19.9
5 健康な子の育児情報	35.2	51.6
6 子どもの病気・事故	3.7	17.0
合計	100.0	100.0

朝日新聞では約半数の51.6%が「健康な子どもに関する情報」で、領域4~6の小児保健に関する情報が計88.5%と多くを占め、母性保健の分野の情報が少なかった。小項目でみると、「ビー・アンド」では、全ての項目が少なくとも1回はカウントされたが、新聞では全くカウントされない項目が母性保健の分野の44項目中15項目(34%)も見られた。

2. 雑誌「ビー・アンド」質的項目の集計結果

(1) 記事内容の分類

記事内容を表2のごとく分類し結果を示した。件数では広告が最も多く551件(53.2%)を占めるが、頁数では「実用記事」が最も多く1008頁(44.3%)と

なっている。次が「広告」で732.4頁（32.2%）、続いて随筆などやや間接的に役立つ「読物」が305.6頁（13.4%）となっており、以上で全体の約90%を占める。残りの頁は、漫画122.6頁（5.4%）、読者投稿94.1頁（4.1%）などである。

表2 「ピー・アンド」記事内容

	件数	%	頁数	%
1 実用	330	31.9	1008	44.3
2 読物	114	11.0	305.6	13.5
3 漫画	11	1.1	122.6	5.4
4 読者投稿	17	1.6	94.1	4.1
5 広告	551	53.2	732.4	32.2
その他	13	1.2	9.5	0.4
合計	1036	100.0	2273	100.0

(2) 記事制作形態の分類

ひとつの記事がどのような過程を経て制作されるかは、情報の質が決まる上で重要な部分である。表3のごとく分類し結果を示した。分類上注意を必要としたのは、一見した内容は実用記事であるが、商品名が欄外などにでており、実は広告主によって制作されているという頁である。それぞれの状況に応じて分類した。

制作形態では「広告主指定」が件数で577(55.7%) 頁数で804.6 (35.4%) と最も多いが、広告以外の記事では「専門家による監修」が138件 (13.3%)、522.4頁 (23.0%) と1番多く、「専門家執筆」189.5頁 (8.3%) と「専門家インタビュー」65.3頁 (2.9%) を合わせると、専門家が何らかの形で関わった記事の合計は777.2頁 (34.2%) となる。

次いで多いのは「編集部」制作で283.4頁 (12.5%) である。続いて著名人などが書く子育て論などの「非専門家執筆」210.5頁 (9.3%)、「読者投稿」160.5頁 (7.1%)、非専門家へのインタビュー記事が27.7頁 (1.2%) その他、であった。

(3) 制作に関わった専門家の職種

専門家の職種は医師が598.3頁で、専門家全体の77%となる。その他の妊娠・出産・育児に関わる職種は「看護婦・助産婦・保健婦」2.9%、「栄養士」1.7%、「心理・教育関係」2.5%と極端に少ない。「他の分野の専門家」が121.4頁 (15.5%) で、医学以外の内容の膨らみを出していると言えるだろう。

(4) 記事内容の肯定度

一つの事柄についての情報は、いろいろな側面から得られた方が受け手の情報選択にとって有利である。その意味で個々の記事が、肯定的か（勤めている）、否定的か（勤めない）、または中立な立場を取っているかを調べた。当然広告は全て肯定的となる。結果は「肯定的」が多く1924.5頁 (84.7%)、「中立」は333.9頁 (14.7%)、否定的はほとんど見られず5頁 (0.2%)、記事にして1件だけであった。

表3 「ピー・アンド」記事の制作形態

	件数	%	頁数	%
1 専門家執筆	83	8.0	189.5	8.3
2 専門家監修	138	13.3	522.4	23.0
3 専門家インタビュー	21	2.0	65.3	2.9
4 編集部	109	10.5	283.4	12.5
5 非専門家執筆	66	6.4	210.5	9.3
6 非専門家インタビュー	11	1.1	27.7	1.2
7 読者投稿	28	2.7	160.5	7.1
8 広告主指定	577	55.7	804.6	35.4
その他	3	0.3	9	0.4
合計	1036	100.0	2273	100.0

3. 朝日新聞の質的項目集計結果

(1) 記事の構成

記事全体の70549行のうち、タイトルは25334行 (35.9%)、写真、イラスト、漫画、グラフといった視覚的な情報が21520行 (30.5%)、記事本文が23740行 (33.6%) を占めた。記事のタイトル部の大きさ（紙面を占める割合）は読者に与える印象にかなり影響があると考えられるが、タイトル文字の大きさでは、18~24ポイントが多く155件 (33.1%) であった。100ポイント以上の大きなタイトルは5件あった。

文字以外の視覚的情報があったのは248件 (52.3%) である。写真が199件 (4.2%) 17175行 (24.3%)、イラストは88件 (18.6%) 3326行 (4.7%)、グラフは7件 (1.5%) 206行 (0.3%) であった。

(2) 制作者

表4に示した記事の制作者では、「記者」が251件 (53%) 33591行 (47.6%) と大半を占めている。こ

れには専門家へのインタビュー記事も含み、専門家自身の執筆は「医師」32件(6.8%)4402行(6.2%)のみで、母子保健分野の医師以外の専門家の執筆は皆無であった。「記者」の次に多いのは「広告主」で81件(17.5%)26315行(34.3%)であった。「投稿」は件数では96件(20.3%)と多いが頁数では4375行(6.2%)と量としては医師の執筆と同程度であった。

表4 「朝日新聞」記事制作者

	件数	%	全行数	%
1 記者	251	53.0	33591	47.6
2 医師	32	6.8	4402	6.2
3 シンポジウム	1	0.2	34	0.1
4 投稿	96	20.3	4375	6.2
5 広告主	81	17.5	26315	34.3
その他	13	2.3	1877	5.6
合計	474	100.0	70594	100.0

(3) 該当記事が掲載された面

新聞の場合、その記事がどこの面に掲載されるかで、読者の印象は異なる。朝夕刊別では、朝刊431件(71.9%)46328行(65.6%)、夕刊124件(26.2%)21130行(29.9%)、日曜版9件(1.9%)3091行(4.4%)であった。

表5のごとく14の面分類に従って分類した。広告の占める割合が量的に多く、広告面が25327行(35.8%)を占める。他の面に掲載された広告はそれぞれの面分類に含まれていて、この他に988行ある。件数では「家庭面」152件(32.1%)が最も多く、行数でも広告に続いて15058行(21.3%)と多い。行数で多いのは続いて「社会面」7343行(10.4%)、「投稿」3867行(5.5%)、「第1面」は3067行(4.3%)である。以上のような面に該当しない、シンポジウムなど記録記事は「その他」に含めたが、1件が量としては大きく、33件(7%)8882行(13.2%)を占めている。

(4) 肯定度

記事内容は「肯定的」(勧めている)が多く約半数244件(51.5%)44443行(63%)であるが、次の「中立」が176件(37.1%)22005行(31.2%)と「ピー・アンド」に比べ多い。「否定的」(勧めない)も、46件(9.7%)3122件(4.4%)と「ピー・アンド」より多く見られた。

表5 「朝日新聞」記事掲載面

	件数	%	行数	%
1 一面	18	3.8	3067	4.3
2 政治	1	0.2	95	0.1
3 国際	12	2.5	1145	1.6
4 経済	7	1.5	484	0.7
5 商況	1	0.2	36	0.1
6 投稿	50	10.6	3867	5.5
7 家庭	152	32.1	15058	21.3
8 スポーツ	1	0.2	164	0.2
9 地方版	24	5.1	1761	2.5
10 社会	69	14.6	7343	10.4
11 文化	31	6.5	897	1.3
12 科学	19	4.0	1514	2.1
13 企画・解説	5	1.1	499	0.7
14 広告	50	10.6	25327	35.9
その他	34	7.2	9337	13.2
合計	474	100.0	70594	100.0

IV 結語

雑誌と新聞という2つのメディアに於ける情報をそれぞれの質的要素に従って分析し以下の結果を得た。

1. 「朝日新聞」では小児保健の分野の情報が90%近くを占め、母性保健分野の情報の割合が少ない。
2. 「ピー・アンド」、「朝日新聞」いずれも広告が約3分の1の量を占めており、情報として軽視できない量である。
3. 記事制作に関わっている専門家は、医師が大部分を占め、母子保健分野の医師以外の専門家の頻度が非常に少ない。特に新聞への執筆は皆無であった。
4. 記事の傾向は、どちらも「肯定的」が多いが、「中立」「否定的」記事は「ピー・アンド」に比べ、「朝日新聞」の方に多くみられた。

文献

- 1) 齋藤幸子、岡本暁：妊娠出産育児情報の数量的評価に関する研究—雑誌「ピー・アンド」6年分の分析、日本総合愛育研究所紀要第29集、p135-138、1993.6。